

よげんしゃ 預言者に みみ 耳をかたむける

キャロリーナ・マリン

(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

このお話は、アルゼンチンでの出来事です。

フランススコはまどの横のソファーにすわって、まどのわくにおもちゃの車をならべていました。

「聖文を読む時間ですよ」とママが言いました。フランススコときょうだいたちがリビングに集まると、ママはモルモン書を開きました。

フランススコは、ママがアビナダイの話を読むのを聞いていました。アビナダイは預言者で、民を教えようとしたが、人々は耳をかたむけませんでした。

「アビナダイって勇気があったでしょう？」とママが言いました。「アビナダイは人々に教える大切なメッセージをイエス・キリストからさずかっていたの。そして伝えるのをやめなかったのよ。」

フランススコはうなずき、アビナダイが人々に教えている様子を想像しました。

「来週何があるか覚えているかい？」とパパが聞きました。

「もちろん！」フランススコは背中をまっすぐにしてすわりました。「総大会！」

「そのとおり」とママは言いました。「総大会では預言者の言葉を聞くことができるわね。」

すると突然、外の通りから音が聞こえてきました。「今日はかぼちゃにピーマン、トマトもあるよ！」と大きな声でよびかけています。

フランススコはその声を知っていました。果物と野菜を売っている、ラモンです。毎日トラックで通りを走っては、どんな果物や野菜があるかをみんなに伝えるのです。家の中にいる人にも声が聞こえるように、ラモンはスピーカーを使います。そうすると、人々は外に出てきて食べ物を買うのです。

「りんごとおいしいバナナもあるよ！」ラモンの声が聞こえました。

フランススコはある考えがうかびました。「ママ！ 預言者はスピーカーみたいだね！」

「どういう意味？」と、妹がたずねました。

「ラモンがスピーカーを使うみたいに、イエス様は預言者を使って御自分の言葉を分かち合われるんだ。世界中の人が主の声を聞くことができるようにね！」フランススコはにっこりと笑いました。

フランススコはネルソン大管長の話を聞くのが楽しみでした。

何日かたって、もうすぐ総大会の時間です。パパはプロジェクターを設置して、総大会をかべにうつして見られるようにしました。ちょっと映画館のような感じです！

ママは、みんなが総大会を見ている間に食べられるように、チョコレートチップクッキーを作りました。預言者が話す番になると、みんなむねをおどらせました。

「聖約の道を進み、歩み続けてください」とネルソン大管長は言いました。*

「ぼく、そうしたい！」とフランススコは言いました。「でも、どうすればいいんだろう。」

「フランススコはもうそうしているよ。」パパがほほえみました。「バプテスマを受けることで、イエス・キリストにしたがったね。そして今も毎日、主にしたがおうと努力することで、聖約の道にとどまることができるんだ。」

フランススコはにっこりと笑いました。イエス・キリストにしたがいたいと思いました。預言者にしたがうことによって、それができるのです！ ●

あなたはどのように預言者にしたがうことができますか。

イラスト/カロライナ・フアラース